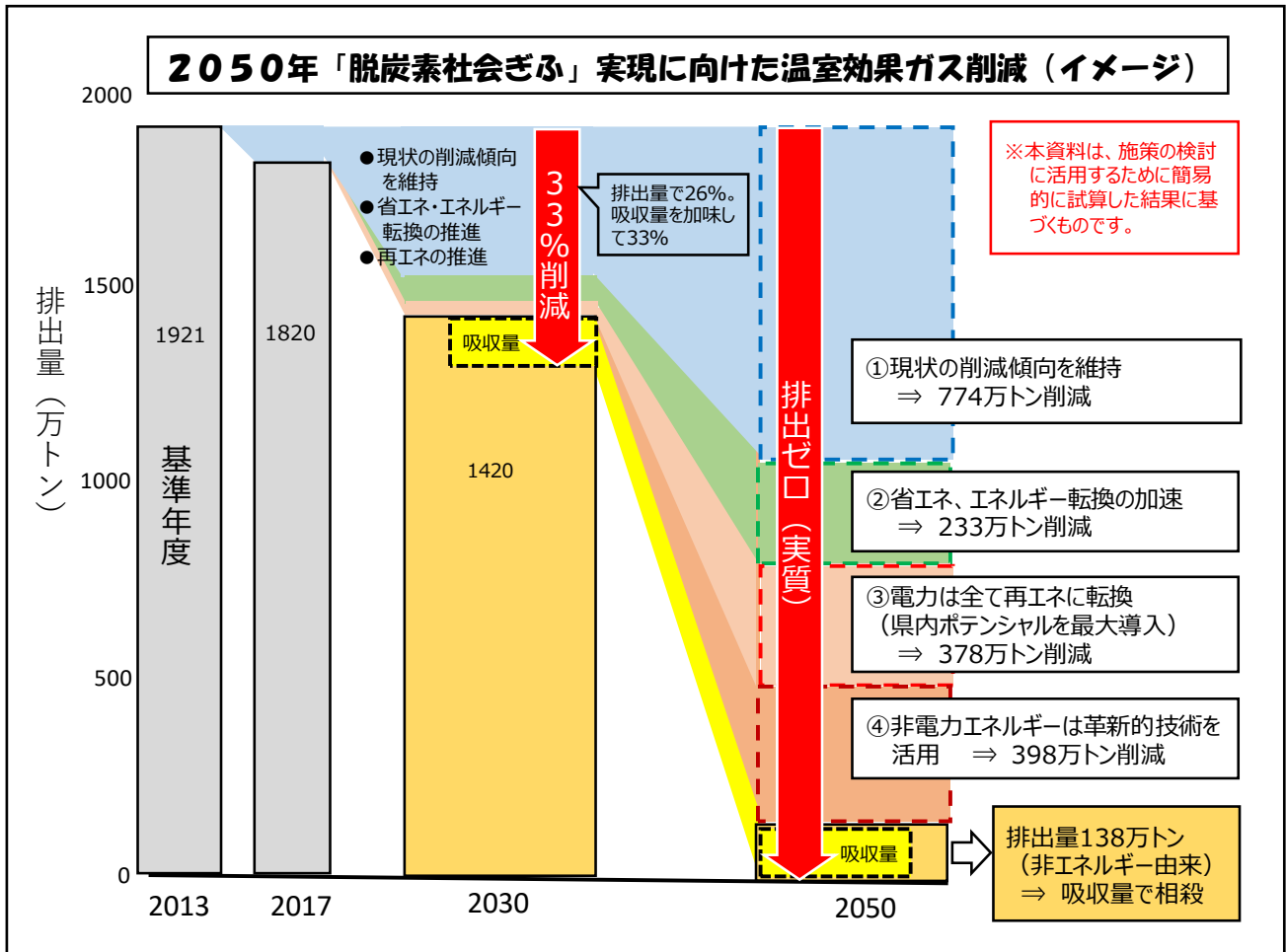


(参考)

○2050 年度温室効果ガス排出量実質ゼロの実現可能性を検討



試算のまとめ

- ・2050 年度に温室効果ガスを 2013 年度比で少なくとも 1,007(万 t-CO₂) (① + ②) 削減し、不確実性の高い再生可能エネルギーを最大限導入 (③)、革新的技術 (④) の社会実装ができれば、温室効果ガス排出実質ゼロにできる試算ができた。
- ・2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度比で少なくとも 501(万 t-CO₂) (26%削減) 削減 (森林吸収量 138(万 t-CO₂) を加味して 33%削減) すれば、温室効果ガス排出実質ゼロにできる試算ができた。
- ・なお、省エネの徹底によりエネルギー消費量を 6 割削減することにより、革新的技術といった不確実性のある因子を除いた場合でも、温室効果ガス排出実質ゼロに近づくことができる。